

令和6（2024）年度 第1回子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和6（2024）年6月28日（金） 14：00～16：00
- 会 場 健康管理センター3階 集団指導室
- 出席委員 植木会長、野中副会長、金子委員、遠藤委員、関沢委員、高橋委員、小林委員、
村井委員、根立委員、上杉委員 【10人】
- 欠席委員 品田委員、石川委員 【2人】
- 事務局 中村子ども未来部長
（子育て支援課）田中課長、小池課長代理、石橋課長代理、曾田係長、重野係長
山崎主任、丸山主任
（保育課）笹川課長、細山課長代理、権田係長、小山係長
（子どもの発達支援課）小林課長、小山課長代理
（福祉課）村田課長、早川課長代理 【16人】

1 開会 司会：子育て支援課主任

2 辞令交付

「柏崎市子ども・子育て会議について」に基づき、事務局より委員の役割を説明

3 挨拶 子ども未来部長

令和6年度第1回子ども・子育て会議に出席いただき感謝申し上げます。

第2期の計画は、今年度が最終年度となる。この計画に基づく事業の実施状況について意見等いただくとともに、次の計画となる第3期計画の策定に向け、協力をお願いしたい。

現在の人口減少及び少子化について様々な支援策が国、自治体で行われており、国では昨年こども基本法の制定、こども大綱の策定とこども施策が体系的に取りまとめられた。このことを受け、こども計画の策定が各自治体に努力義務として位置づけられた。

今後、国のこども大綱、県の計画を参考にしながら取組を進めていきたい。

こども施策がさらに充実するよう、各分野の皆様から専門的なご意見をいただきたい。

4 委員・事務局紹介

5 会長・副会長選出

会長：植木会長 副会長：野本副会長に決定

6 議事 司会進行：会長

(1) 第二期子ども・子育て支援事業計画(令和6（2024）年度 取組状況・予定)について

・冒頭、総括表の見方、事業評価基準表について事務局より説明

・総括表（令和6（2024）年度 取組状況・予定）に基づき各担当者より説明

・総括表1～3 ①、② 教育・保育給付、地域子ども・子育て支援事業について

事務局：①施設型給付

②地域型保育給付

(1)一時預かり事 について説明

<質問・意見等なし>

・総括表4～7 地域子ども・子育て支援事業について

事務局：(2)延長保育事業

(3)病児保育事業

(4)こども家庭センター利用者支援事業（母子保健型）

(5)妊婦健康診査

について説明

<質問・意見等なし>

・総括表8～11 地域子ども・子育て支援事業について

事務局：(6)妊産婦・新生児訪問及びこんにちは赤ちゃん事業

(7)乳幼児健康診査

(8)児童虐待防止事業

(9)家庭児童相談事業

について説明

<質問・意見等なし>

・総括表12～15 地域子ども・子育て支援事業について

事務局：(10)養育支援訪問事業

(11)養育支援事業（育児支援ヘルパー）

(12)子育て短期支援事業

(13)ファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動支援事業）

について説明

会 長

ファミリー・サポート・センター事業について、依頼会員の人数に比べて、提供会員の作年度の実績が極端に少ないが、人材の確保策はあるか。

事務局

研修会を実施する際や広報でもPRしている。サービスを受けた依頼会員が、その後、提供会員になりたいという方がいる。（令和5（2023）年度の）新規会員5人のうち2人は、今回、研修会を受けて、提供会員になった方である。画期的な策はないが地道にやっていきたい。

委 員

No.13養育支援事業(育児支援ヘルパー)の昨年度実績で、認定証交付数に対して、利用者数が少ないことが課題であるとあるが、面談や訪問などで必要だと市が判断したが利用されていないということか。

また、この事業で18歳未満の児童を養育しているものは対象になっていると思うが、母子手帳交付時、助産師の訪問、保健師訪問などの場合、学齢期以降18歳までの方への周知はどのようにしているのか。

委 員

認定書交付数に対しての利用者数が少ないところについて、必要な時にすぐ利用できるように申請していただいている方が多いが、実際、子育てをする中で利用までに至らなかった状況がある。

(周知については)対象の方全員に声掛けまでは出来ていない。実際、利用に至らなかった点について今年度は確認し、事業を展開していきたい。学齢期以降の方への周知は保健師や家庭児童相談員が相談を受ける中で、支援が必要な家庭に紹介している。

・総括表16～18 地域子ども・子育て支援事業について

事務局：(14)地域子育て支援拠点事業

(15)放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

(16)子どもの遊び場整備事業

について説明

委員

子育て支援室は、定期的に情報交換をしながら運営されている。差のない支援室が良いと思う反面、それで良いのかと思うところがある。一度も支援室を利用されていない方と利用されている方の割合はどうか。

事務局

差のない子育て支援室について、年に1回、保育係及び保育支援係から市内の子育て支援室の聞き取り訪問をしている。各支援室の職員が工夫し、保護者が喜ぶ「作って遊ぼう」や「手形アート」など、各支援室の職員が工夫している。

支援室を一度も利用されていない方はいると思うが、割合について現時点では把握していない。

・総括表19～20 地域子ども・子育て支援事業について

事務局：(17)子育て応援券事業

(18)医療費助成事業

委員

スターチケットは、子どもが小さい時に使用した。現在は0歳から3歳を対象としているが、4歳以降の子どもの手元にも届くとありがたい気持ちがある。

委員

子どもの医療費について、(一部負担金)530円を窓口で支払う際、スターチケットを利用する患者がいた。最近では財布に現金を持っていない人が多く、電子決済する人が結構いる。県の補助事業で1回530円を支払い受診してもらうが、上越市では子どもの医療費は無料、他県でも半数以上は無料である。新潟県は少し遅い。無料にしたからといって患者が増えることはない。

・総括表21～25 地域子ども・子育て支援事業について

事務局：(19)実費徴収に係る補足給付を行う事業

(20)多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業

(21)出産・子育て応援交付金事業

(22)家庭養育応援券事業

(23)子どもの室内遊び場施設整備事業

について説明

委員

学校の給食費の無償化について、市の動きはあるか。新潟県内では無償化、あるいは一部負担にしているところがある。子どもが小学校に通っていると、年間にかかる費用があり、高学年になると修学旅行の積み立てもあるため10万円を超えてくる。少しでも保護者の方が楽になるようになればと思う。

事務局

市議会からも給食費について質問があった。県内の自治体において、県外も含めて様々な動きがある。柏崎市において、現時点では無償化の動きはない。

(2) 第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画の策定について

別紙4「第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画の策定について」丸山主任より説明

会長

仕組みが複雑で、一見して分かりにくいところがあるが、当面は第3期の支援事業計画の策定を進めていく。ただし、国のこども大綱が閣議決定されているため、その他の計画（子ども・若者計画）について、個別に策定していくか、包含して策定するかを含めて今後検討していきたいという認識でよろしいか。

事務局

そのとおりである。

委員

アンケートの回収率について、回収できなかった理由はなにか。アンケートは紙ベースか、2次元コード読み込む電子形式か。

回収できなかったことの分析は。

事務局

アンケートについては、全て電子形式とし、2次元コードを読み込んだでの回答方法をお願いした。紙で回答したいという方について拒むことはしなかったが、原則電子での回答をお願いした。

ニーズ調査においては就学児童の保護者、就園児童の保護者については公立・私立含め、紙で（調査票を）配布し回答は電子とした。児童クラブの利用者についても、クラブから直接利用児童の保護者に紙（調査票）を配布し、電子での回答をお願いした。

こどもアンケートについては、小学5年生、中学2年生については、学校に協力いただいた。小学校、中学校では、1人1台タブレットがあることから、学校内でまとめて回答する学校もあれば、家庭に帰ってから保護者のスマホ等で回答している方もいると聞いている。高校2年生については、対象者に郵送し電子での回答を求めた。

電子と紙、それぞれメリット、デメリットがあるが、今回は、原則、電子での回答に限定したため、回答率が落ちたと分析している。

委員

（アンケートの回収は）半数の回答なので、幅広い目で市の情勢や状況を考えながら計画を立てていく必要があると思う。子どもを出産することは、結婚してから始まるのではなく、生まれた時からである。昔と違い、子どもたちの育っている環境が、核家族化する中で子育てを全く知らないで大きくなっているところがある。子育ては大変なものではなく、楽しいこと、子育てしていくと自分も育っていく気持ち、一人一人の意識の中に育っていき、そういう人たちが集まる社会だからこそ、柏崎市が良くなっていくと思う。親のニーズに応えていくのは大事だが、ただお金をばらまけばいいというのではなく、もっと心の中が育っていくような、親の心も子の心も温かく育っていくような取り組み要素も踏まえながら計画が整っていくことを願っている。

事務局

全員が回答すれば良いが、そうはならない。自由記述もたくさんいただいている。今回、子どもたちに対しても市独自にアンケートを実施した。小学校5年生は学校か

らの協力もあり、非常に回収率が高くなっている。高校生については、回収率は低いですが、アンケートや委員の方の意見を聞かせていただく中で、この支援事業計画、その先にあるこども計画と一緒に作っていきたいと考えている。

本会議で全ての事業を事業評価として挙げきれないが、子育てを楽しいという風なことを分かってもらうため、講座や事業による働きかけも行っている。

・議事終了

7 その他（連絡事項等）

- ・報酬について
- ・次回開催予定について

8 閉会 子育て支援課長

第2期子ども・子育て支援事業計画の令和6年度の各事業の取り組み状況について説明をさせていただきました。新しい委員を迎え、色々な意見や質問をいただいた。はじめて聞く事業等もあったと思う。

議事にもあったが、令和6年度は、第3期の子ども・子育て支援事業計画を策定する。アンケート結果、委員の皆さんからの意見、要望をいただき、ニーズに沿った客観的で適正な評価、見直しが今年はできると考えている。

一人一人、柏崎にいる子どもが健やかに成長できるよう願っている。子ども未来部だけで頑張ってもできることではない。現在は、ママもパパもみんな一緒に子育てする、パパ育休という言葉もあるが、企業からのバックアップもいただけるようになってきており、時代も変わってきていると思う。今後、皆さんから様々な意見をいただきながら進めてまいりたい。

以上